アメリカにおけるロシア語教育スタンダーズの内容と役割

トルストグーゾフ・A※

0．はじめに

世界の外国語教育に於いて、学習「基準・規範」であるスタンダード（目標領域）が注目されている。最近のスタンダードは、言語運用能力の規定、教育指導の環境と言語能力の評価法について記述しており、言語教育に共通性を与えようとしている。カリキュラムは言語構造ではなく学習者の必要性に基づいて作成されているが、各レベルにおいて、言語使用者は典型的に何ができるかという観点から言語習熟度が定義されているわけである。こうした基準はシラバス・教材の作成や到達度評価に用いられているものである。すでに豪州、米国、欧州、日本、中国、韓国、ロシアなどで外国語基準が作成されている。

アメリカにおけるロシア語教育部門をなすのは「Standards for Russian Language Learning」であり、外国語学習ナショナル・スタンダーズプロジェクト（National Standards in Foreign Language Education Project）が1999年に発表した『Standards for Foreign Language Learning in the 21st Century』と題する出版物の一環である。発行以来、大きな役割を果たしている。本論文では、学習基準の背景にあるアメリカにおけるロシア語教育状況の概要、ロシア語スタンダーズの概要、教育に対するその影響を概観する（総論と日本語教育スタンダードの日本語訳（国際交流基金日本語国際センター, 2002）が存在し、本論文でも適宜参照したが、訳語等で従わなかった箇所もある）。

1．アメリカにおけるロシア語教育

アメリカの場合、教育は州の専管事項とされ、基本的な教育制度や教育政策は州によって決定される。州政府は一般的教育基準、卒業要件、教師資格等を定めている。また、州は初等・中等教育に関する教育課程の実際の運用に当たっては、州から委託された学校区の教育委員会や各学校の裁量に委ねている場合が多く、学校区ごとあるいは学校ごとに教育課程の実際の運用の仕方には様々なタイプが生じている（田中、相川, 2004, pp.2－3）。

アメリカにおける外国語教育は、一部の州を除いて必修科目ではない。ロシア語教育が様々な形で行われている。それは、公立の教育機関（初中等教育機関、カレッジ、大学）あるいは他の施設（様々な講座、教会付属学校、ロシア語私立学校など）においてである。2010年４月時点のデータによると、アメリカ50州の中でロシア語は46州の学校で全539のプログラムで教えられている。学校の大多数は大西洋沿岸北部のニューヨーク州（37校）、ペンシルバニア州（27校）、ニュージャージー州（23校）、メリーランド州（26校）にあるが、テキサス州（43校）、オハイオ州（30校）にもある。太平洋沿岸では学校数がもっとも多いのはワシントン州（26校）、カリフォルニア州（25校）、アラスカ州（23校）である（Davidson, Garas, 2009, pp.17-19）。こうした学校の存在はロシア語話者の人口密度の反映である。

ロシア語学習者数の変動としては、1990年にピークの44000人以上に達し（Merrill, Lekic,

※ 青森公立大学准教授

Levine, 1997, p.16)、その後、20世紀末に大幅に減少した。2008－2009学年度では、46州のロシア語学習者数はおよそ16500人である（Davidson, Garas, 2009, p.9）。現在、アメリカでは、主に学ばれる外国語であるスペイン語とフランス語に比べて、ロシア語の人気はより低い。学習者数減少の他の理由としては、主ではない言語の教育のための財政的問題、技術的資源の不足、多くの学校の規模の小ささ、ロシア語の教員の採用の難しさなどを挙げることができる。

長らく不振が続いたが、最近、ロシア語のプログラムを選ぶ学習者（学校の生徒を含む）の数はある程度増えてきた。アメリカの国家レベルでは、ロシア語は、国家の利益にとって特に重要な５つの外国語（アラビア語、中国語、日本語、ペルシア語、ロシア語）の１つである。その５つ言語の中で、唯一ヨーロッパに属するロシア語は、アメリカで、学術や文化交流、両国間の相互理解と経済発展に大きな意味を持つ外国語として扱われている。

ロシア語を選ぶ者の中で、最近、注目されるのは、両親のどちらかあるいは双方がロシア語ができる家族の子供（いわゆるheritage speakers）である。彼らは、人によってはある程度ロシア語を喋ることができるが、より高いレベルでのロシア語習得を望む場合がすくなくない。

ロシア語教育を行う学校のうち21％は４年間のプログラム、19％は２年間のプログラムである。2008－2009学年度には公立学校で156人の専任講師と243人の非常勤講師がロシア語を担当した。ロシア語を提供している学校の一クラスの生徒数の平均は25人である（Davidson, Garas, 2009, p.11）。

すべての学校がロシア語教育を行うための条件を備えているとは限らない。最近の言語クラスでは様々な形のテクノロジー（ウェブ上のプログラム、コンピューター・アシスト・ソフトなど）の利用が増えている。また、資源とスタッフが限られた学校では、選択形式を採用したロシア語教育も広く見られる。たとえば、ロシア語のコースを提供していない学校は、能力のある生徒に他の教育機関でのロシア語履修を許可し、習得した単位を認める。また、ある学校では、ロシア語の教育をオンラインコース（«Rosetta Stone»または«Access»）で行っている。このような形式の教育の利点は、与えられるコースの数と種類に制限がないこと、履修者が小人数でもクラスが運営できることである。

２．外国語教育の国家基準(National Standards)の概要

２－１　外国語教育の国家基準の作成

1980年代初頭、教育評価の国際比較によってアメリカにおける基礎教育不足が浮き彫りにされ、連邦政府（教育相）主導による教育改革が始まった。連邦レベルでの基礎学力の水準を高めるための教育課程の枠組みの方針が打ち出された。この方針の目標には、核科目となる教科に外国語を含め２言語以上の能力を持つ生徒の割合を実質的に増加させるため、州や地方の学校へ交付金を出し、外国語援助プログラムを支援する活動も含まれている（田中、相川、2004, p.3）。

アメリカの教育界では、教育改革の一環として、言語教育を改善するために、できるだけ高い習得・教育目標をたて、それを達成するように学習・教育する動き、いわゆるスタンダーズ・ムーブメントが進んでいる。1993年全国的外国語教育組織である、全米外国語教育協会(ACTFL)が中心となり外国語教育全国基準推進プロジェクト（National Standards in Foreign Language Education Project）を立ち上げた。その後、1996年にNational Standards（以後、スタンダーズ）である『Standards for Foreign Language Learning: Preparing for the 21st Century』が完成した。この1999年版の『Standards for Foreign Language Learning in the 21st Century』は、中国語、古典語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、日本語、ポルトガル語、ロシア語、スペイン語（2006年版にアラビア語が追加した）を含んでいる。それまで独自にまた各外国語の教員間の協力なしに行われていた個別外国語の教育が統一された。また、それまで州独自で展開されていた言語教育が州を越えて共有可能となり、分析や評価の道具が提供され、言語教育の見直しが進んだ。

２－２．外国語教育の国家基準の教育理念

外国語教育の国家基準の教育理念は以下のごとくである。言語とコミュニケーションは人間生活の基本である。多民族社会のアメリカ国内、また海外においても生徒が多言語・多文化に適応できるような教育をしなければならない。すべての生徒は英語の能力を高めると同時に、少なくとも１つ以上の現代語あるいは古典語を習得する必要がある。英語を第１言語としない背景の生徒たちは、自分たちの第１言語である母語能力を一層向上させる機会を与えられなければならない。

この理念を支える３領域の仮説：

①「言語と文化」の仮説

１つ以上の言語と文化を身につけると次のことが可能となる：

- 他の文化の人々と様々な分野でコミュニケーションが図れる。
- 自分自身の習慣や見解を超えることができる。
- 自分自身の言語や文化への洞察力を高めることができる。
- 自己と他の文化の人々との関係をより強い意識を持って行動できる。
- さらに広い知識の領域に直接接することができる。
- 地球規模の社会や市場により積極的に参加できるようになる。

②「言語と文化の学習者」の仮説

全生徒は言語と文化の学習成功者となることができる：

- 学校のすべての学習過程で言語や文化の学習に接しなければならない。
- １つ以上の言語能力を発展させ、その能力を維持することによって利が得られる。
- 様々な方法や様々な状況の中で学習できる。
- 様々な速さで熟達することができる。

③「言語と文化教育」の仮説

言語と文化教育はコア科目の一部である：

- そして、効果的な学習戦略、評価、教育工学を備えたプログラムモデルに結びつくものである。
- 国、州、地方レベルでのスタンダードの内容充実が図られる。
- 基本的コミュニケーションスキルと物事を順次立てて考える能力を一層高める。

（田中、相川，2004，pp.6－7）の翻訳による。

アメリカの外国語教育スタンダーズは、21世紀における外国語教育の新しい方向を示している。米国スタンダーズの教育理念は、小学校入学前教育の段階から高校卒業時あるいは大学までの長期にわたる外国語学習に連続性を持たせることを重視する。また、アメリカでは、外国語教育の教育理念としてコミュニケーション能力と批判的思考分析スキル、多文化主義や文化的洞察力の養成を強調している（牛田2007、柴原2007）。

２－３．外国語教育の基本原理：５つのＣと11の内容スタンダード

「Standards for Russian Language Learning」は、かなり総覧的な文章であるが、決してカリキュラムの概要ではない。ナショナル・スタンダーズとロシア語スタンダーズの目的は、カリキュラム作成のための、できるだけ広い基本原理を定めることにある。その基本原理は学習目標領域（goals）と基本原理の下位項目である学習基準（standards）を含む。目標と基準によって与えられた枠の中で、言語教育者と教育管理者が、自分のニーズを満たすカリキュラムと評価のツールを作成することができる。

米国の外国語教育スタンダーズの基本理念に基づいて、他言語の外国語教育スタンダーズと同じように、「Standards for Russian Language Learning」は５つの言語学習の目標領域―能力（５Cs）と11の内容スタンダード（content standards）を以下のごとく立てる。

Communication（コミュニケーション、言語伝達・意思伝達）（３つのスタンダード）

Culture（文化）（２つのスタンダード）

Connections（コネクション、他教科との連携）（２つのスタンダード）

Comparisons（言語や文化の比較対照）（２つのスタンダード）

Communities（コミュニティー、地域・グロー

バル社会への参加）（２つのスタンダード）

以前、コミュニケーションは、読む、聞く、話す、書くの四技能を統合して行っていた。米国の外国語教育スタンダーズは従来の四技能による教育方法の見直しを提起しているとも言える。スタンダーズの中心である５つの学習目標領域は、21世紀に活躍できるためにアメリカの学習者が学習すべき知識と能力の規定を与える。スタンダーズが示しているように、言語教育は単に形式上の言語体系に留まらず多くの要素を含んでいる。言語教育の個別の目標が総体に調和することが理想である。目標のコンビネーションがあって初めて言語の相互作用に意味が賦与される。

Communicationは、ロシア語を含むすべての外国語教育において主な目標とされ、一番先に述べられている。この目標領域は、21世紀を代表するビジネス、芸術、科学などの分野におけるロシア語話者との相互交流のための重要な能力の記述を与える。ところで、ロシア語話者との相互交流の能力やロシア語の資料の利用は、ロシア人がロシア語を用いる時に現れるロシア文化（Culture）を想定しているし、その世界観の理解を伴う。Connectionsは、生徒がロシア語の授業で得た知識を、他の教育分野での知識の拡大に利用できることを意味する。さらに、生徒にとっては、ロシア文化の概念と比較（Comparisons）することでアメリカの文化のより深い理解が可能になると考えられる。

ConnectionsやCommunitiesが他教科と結びついたり、地域との接点を持ったりするなどして、コミュニケーション能力育成につながる。スタンダーズの新しいビジョンでは外国語学習の社会的役割を明示した点が特徴的である。スタンダーズの５つの目標を合わせて考えると、必然的に、外国語教育が伝統的な教育環境――学校のクラス――の外に広がる。この意味で、スタンダーズは、言語教育を語学クラスの外に広げることによって、他の教科とつながりを持たせ、言語や文化と人間行動との基本関係の検討をさせ、学習者を市場環境へ適応させるように教員を奨励する。

スタンダーズの５つの能力を盛り込んだ内容重視のアプローチが、すべてのレベルの学習者に合う最適の教授法である。内容重視のアプローチとは言語そのものを授業の中心にするのではなく、教材の内容を重視し、内容に関する言語活動を展開することによって、外国語能力を伸ばそうとする教授法である（牛田2007）。

５つの能力に加えて、言語システム、コミュニケーション・ストラテジー、学習ストラテジー、文化知識、他教科の内容、テクノロジー、批判的思考分析スキルの７つの要素を盛り込んでより豊かなカリキュラムを作成することが奨励されている（牛田2007）。

スタンダーズに定められた、それぞれの目標領域で学習者が学習すべき11の内容スタンダーズは、学習者が何を知らなければならないか、何をすることができるかの**学習到達目標**を具体的に説明する。各スタンダードは、学習者が知識と能力を習得するための特定の分野として規定される。しかし、スタンダードはパフォーマンスのレベルの規定を含まない。その代わりに、学習者のパフォーマンスが基準の枠の中でどのような進歩を遂げるか具体的なサンプルを示す目的で、「Standards for Russian Language Learning」は、他言語のスタンダーズと同じように、目標内容に合うような指導をするための基準点である**到達指標サンプル**を含んでいる。到達指標サンプルは基準ではなく、いかなる意味でも規範ではない。まさに、それは基準に合う言語活動のサンプルである。最後に、スタンダーズの内容が学習活動としてクラスで実施されるための**学習シナリオ**（１つのまとまった学習活動がストーリーとして書かれているもの）の例がいくつか示されている。

３．ロシア語教育スタンダーズの内容

３－１　Communicationロシア語で意思伝達する

Communicationは、現在、外国語教育の中枢として、コミュニカティブ能力の育成が企てられている。それは、ロシア語を含むすべての外国語教育において主要な目標領域とされる。それは、スタンダーズが作成された時点の言語教育

界ではまだ語彙習得と文法の正確さを目指す旧来の教育志向の教育者が多かった状況で、言語教育における近代的なアプローチとして宣言されたのである。スタンダーズにおいてコミュニカティブ能力の習得を前面に出すことによって、教育者による教授法の変更が目指されたといってよかろう。

米国スタンダーズの特徴は、コミュニカティブ能力がコミュニケーション・モード（形態）として記述されることである。スタンダーズに反映されている最近のコミュニケーション論では、以下の３つのコミュニケーション・モードが提案される。また、スタンダーズでコミュニケーション・モードは２つのパラメータによって記述される：①one-way communication とtwo-way communication、②所産能力〔表現能力〕と受動的能力である。言語の様々なコミュニケーション活動はスタンダーズに示されているが、以下の３つのモードは、コミュニケーション能力をいかに教育し、習得させるべきかという主張を表すものである。

１.１　Interpersonal mode―対人的コミュニケーション、two-way communication、相互の情報のやりとり、所産能力、聴解と会話／読解と作文の能力。

１.２　Interpretive mode―解釈的コミュニケーション、one-way communication、情報の解釈、受動的能力、読解と聴解の能力。

１.３　Presentational mode―提示的コミュニケーション、one-way communication、発表能力、所産能力、会話と作文の能力。

モード１.１、１.２、１.３はコミュニケーション能力の教育と習得に関する大きな提案である。なぜなら、最近のコミュニケーション論の３つのコミュニケーション・モードを基準にしており、これは、聞く、話す、読む、書くの４つのスキルをもとにしたこれまでの外国語教育のアプローチと一線を画するからである。

ロシア語教育スタンダーズには、目標領域における学習到達指標が４年生、８年生、12年生（個別言語の学習基準の場合には16年生（大学４年終了時）で示しめされている。これは、いわゆる内容基準（コンテント・スタンダーズ）であり、能力基準（パーフォマンス・スタンダーズ）ではない。したがって、「何ができる、何がわかる」を示したものであり、「どれくらい、どのレベルでできる、わかる」を示したものではない。

本論文では、ロシア語初級教育のスタンダーズの内容に注目し、以下に述べられている11のスタンダードの内容のうち一番下の記述である４年生のレベルに限って論じる。ただし、コミュニケーション・モードにおいてもっとも重要な対人的コミュニケーション・相互の情報のやりとりの記述を含むスタンダード1.1だけは参考としてロシア語のすべてのグレード（４年生、８年生、12年生）を紹介する。

スタンダード１.１　会話をし、情報を提供したり、獲得したり、感情・感動を表現したり、考えを交換したりする。

４年生の到達指標サンプル

- 年齢に相応しい教室活動に参加するための簡単なロシア語の指示（聞いてください、繰り返してください、黒板の方に出てください など）を与えたり、従ったりする。
- 家族・学校・自分の町のようなトピックに関して質問したり、答えたりすることができる。
- 日常の環境における様々なトピックに関して個人の好き嫌いを他人と、あるいはクラスで意見交換する。
- ロシア文化に登場する人々、場所、料理、住まい、季節などについてお互いに描写しあう。
- 出会い、別れの際の挨拶、よく使われる教室内の表現を文化的に適切な動作をともなって表現できること（手振りと口頭）。表現を使ったり、それらに反応する（привет「やあ」、Что на завтра? 「明日、何があるか」、先生が入室するときの起立）。

８年生の到達指標サンプル

- 学齢に相応しい教室活動（スケッチの作成、読書グループでの活動、共同研究）に参加

するために必要な指示に従ったり、指示を与えたりできる。説明を求める質問したり、答えたりすることができる。

- 個人的なイベント、学校で勉強する教科に関する情報、好み、学校外の活動、季節に関するトピックを同年代の者、先生、ロシア語話者と話したりする。
- イベント、学校で勉強する教科に関する情報、好み、学校外の活動、季節に関することについて集めた情報を比較対照したり、表現したりする。
- 会話を通して物品、情報を得る。
- 学校、コミュニティーに関係した活動、問題について話し合うため、グループで活動する（同年齢者との関係、喫茶店での料理、老齢者生活センターでのボランティア活動）。

12年生の到達指標サンプル

- ロシアの文化、歴史、重要な出来事（10月革命、スターリン主義、祝祭日、詩人アフマートワの生涯と詩）についてのテキストを読んで、そのトピックに関する自分の考えを口頭で話し合ったり、書き言葉を使って発表する。
- 生徒とロシア人に興味のあるトピックと問題（将来の計画、経済、暴力、男女の役割）に関して意見を交換する。
- クラスメイト、ロシア語プログラムを履修するロシア出身の人々、国内での文通相手、ロシアでの文通相手と芸術作品に対する感想を話し合う（"Коля"のような映画、現代ポップ音楽、ロシアアヴァンギャルドの絵画）。
- 興味あるトピック（学校、旅行、音楽、政治）に関してインターアクティヴテクノロジー（Eメール、インターアクティヴテレビリンク）を通して、その背景に関する感想、意見を交換する。
- ロシアの状況とその背景（家族生活、余暇、学校、仕事）と文物（服、食べ物、技術）についてロシア出身のクラスメイトと討論する。

スタンダード１.２　様々な話題についてロシア語で書かれたものや話し言葉を理解し、解釈する。

４年生の到達指標サンプル

- 馴染みのトピックに関係する歌、 詩、 物語、漫画などの、 学齢に相応しい口頭テキスト（«Очи чёрные», «Вакса-клякса», «Ладушки», «Ну, погоди!»）の主なアイディアを理解し、主人公を判別する。
- 身近な、または学校の他教科の人物と物に関する口頭での記述によって判断する。
- 家族、学校、自分の町のような身近なトピックに関する簡単な筆記メッセージと短い個人メモを理解できる。
- ポスターと広告のような、マスメディアの基本的なメッセージ（«Миру мир»タイプのメッセージを含むソ連時代のポスター、あるいはアルコールとドラッグの乱用のようなポスターで取り上げられなかった問題）を理解する。

このスタンダードでの作文能力の育成は長期にわたって言語教育の中枢であった。今でもこの基準は他の目標と様々な形で交差させることができる。

スタンダード１.３　様々なトピックに関して、情報、意見、考えを口頭で、あるいは書いて発表する。

４年生の到達指標サンプル

- 学習者の身近なこと、家族、学校、自分の町のようなトピックに関した挿絵入りのストーリーを作成し、クラスのような聴衆の前で発表する。
- 歌、短い小話、詩を他の初等クラスの学習者に発表する。
- 彼らの身近な家と学校の人々と物について簡単な口頭発表をし、他の言語クラスと情報交換を行う。
- 口頭で、あるいは書いて、ストーリーを語り、再話する。

- お互いに、あるいはクラスの別のメンバーとロシア語で自分の文化の産物や習慣について話し合う。

スタンダードの内容から言ってはっきりしているのは、外国語教育においてコミュニカティブな目標を達成するには対人的コミュニケーションが主となることである。しかし、会話能力の枠を超えるプレゼンテーション・モードも重要な生活能力で、また外国語の特別な能力である。他のコミュニケーション能力と同じように、プレゼンテーション能力も他の目標と多くの面で交差させることができる。

３－２　Culture 他の文化の知識を獲得し、理解する。

Culture（文化）の重要性は、言語が存在する文化背景を知らない間は、言語の習得が不可能であることによって規定される。これは、他の文化の知識を獲得し、理解することの必要性を意味している。文化理解能力の習得は、ロシア人の日常生活の事実とロシア人の考え方、ロシア文化の現象の理解を通じて行われる。

スタンダーズは、Cultureを３P（practice－生活習慣・慣習）、（product－文化的所産・産物）、（perspective－その背景・理由）によって理解しようとしている。単なる表面的な文化を教えるのではなく、学習者が学習対象となる言語文化の行動、所産とともに、最終的にその背景（perspective）をも理解できることを目標としている点で従来の文化の考え方と大きく異なる。Perspectiveとは、「背後にある人々の物の見方・考え方や価値観を含めた展望・文化背景」（日本語学習スタンダーズ, 2002, p.15）として解釈される。

スタンダード２.１　学習対象となる文化の行動・実行様式とその背景との関係の理解を示す。

４年生の到達指標サンプル

- 学校と家族のような場面での簡単な行動と相互作用のパターン（教師の入室時にロシアの生徒は起立する伝統があることを伝えるなど）を観察したり、確認したりする。
- 出会い・別れの際の挨拶のための相応しい手振りと簡単な口頭表現を（«Здравствуйте»と«До свидания» のフォーマル／インフォーマルの差異に気付いて）利用する。
- 年齢に相応しいレベルのロシア文化活動（ゲーム、歌、誕生日の祝い、クラスでの物語朗読）に参加する。

スタンダード２.２　学習対象となるロシア文化の所産・産物とその背景について理解する。

４年生の到達指標サンプル

- 土産、建築スタイル、服、食べ物のような、具体的に見られるロシアの文化的産物を観察したり、確認したりする。
- ロシア文化に属する同年代の者が楽しむ子供の歌、御伽噺、芸術作品のようなロシア文化の表現的産物を経験する。
- 図画、手工芸品、パフォーマンスのような、ロシア文化を代表する芸術品を作ったり、それをロシアの生徒が作ったものと比べたりする。
- ロシア文化の産物関連のテーマ、思想と全体像を識別する。たとえば、生徒は、「ロシアンティー」の概念とサモワールの役割を討論する。

纏めて言えば、アメリカのスタンダーズでは、文化理解能力が、ロシア人の文化――日常生活の諸側面の知識や外部世界にたいする両民族の見方の違い――の理解として認識されている。文化理解能力は、学校だけでなく、アメリカのすべての社会の分野で高く評価されることである。

３－３　Connection 他の教科と関係を持ち、情報を獲得する。

Connectionsは、学習者がロシア語の授業で得た知識を、他の教育分野での知識の拡大に使用すること、あるいは逆に、他の分野からの知識をロシア語とロシア文化のより深い理解に使うことにある。この目標領域は、教科間理解能力

を一つの分野から別の分野に知識を移動させる能力と見なしていると解釈できる。

スタンダード３.１　ロシア語学習を通して他の教科分野の知識を習得・補強する。

４年生の到達指標サンプル

- 家族、天気、自然、四季、動物、地理のような、他の学科で学んだトピックに関する語彙を勉強する。
- 他教科のトピック関連の様々な資源（ピクチャー、地図、ビデオ）を見たり、項目をロシア語で表す。
- 数学と科学の内容の知識を増やすためにロシア語の数字を利用する。

スタンダード3.2　外国語とその文化の学習によってのみ得られる情報を獲得し、またそれによって得られる特有な視点を認識する。

４年生の到達指標サンプル

- 文化と歴史に関した様々な習慣を表す御伽噺、物語、詩（«Два Ивана» のような御伽噺、マルシャークの詩）を聞いたりする。
- 誕生日と他の祝いのトピックに関係した歌（ロシアの誕生日の歌«Крокодил Гена»）を聞いたり、歌ったりする。
- 他のトピックにたいする自分の知識を広げるためのロシアのピクチャーと土産を探す。たとえば、生徒は、マトリョーシカとサモワールを見たり、レーピン・カンディンスキー・シャガールのような画家に描かれた絵とイコンのような様々なスタイルのロシア美術作品のピクチャーを探す。

スタンダード３.２はこれ以前の文化基準の枠外に広がるので、スタンダード３.１と比べてさらに先を行く。なぜなら、それはただの文化制度の理解を超えた分析を導入するからである。スタンダードの具体的な実用例として挙げられることができるのは、たとえば、算数科目の授業でのメートル法の紹介である。それ自体としてはかなり抽象的なことであるにもかかわらず、ロシアの文化――日常生活の多くの事実――の理解への重要な鍵になる。また、ロシア語の授業で得たロシアの祭りに関する歴史知識は、ロシアの宗教の伝統を教える世界宗教のコースに論理的に融合できるだろう。

３－４　Comparisons 言語と文化の性質に関する洞察を深める。

Comparisonsは、母語と学んでいるロシア語の事実と現象の比較と対照を通じて、言語の性質と文化の概念の学習者による理解を発展させる。こうして彼らは、世界の見方には様々な方法があるという事実を発見することができる。たとえば、言語の比較を通じて、学習者は、英語の単語に似ている、共通のインドヨーロッパ語族の語根を持つロシア語の単語を識別する能力を習得し、ロシア語では単語の自由な語順が可能だが英語では不可能であることを理解できるようになる。両言語は歴史的に発達し、単語数を増やし、外来語を受け入れている。この目標では、外国語を学習することにより、自分の母語、文化のことをも比較を通じてさらに深く理解できることを目指している。最終的には、学習者が自分で比較対照できる能力を身に付けることが目標である。

スタンダード４.１　学習対象のロシア語と母語を比較し、母語の性質についての理解を示す。

４年生の到達指標サンプル

- ロシア語と英語のアルファベットを聞いて、その違いを確かめる。
- ロシア語と英語のアルファベットの文字を見て、その類似点と相違点（大きさ、外観、文字の数）を認識する。
- あるロシア語の言葉（“タクシー”、“ラジオ”）が英語の言葉と同じように発音され、同じ意味を持つことを認識する。
- ロシア語と英語における “hello” と “goodbye” の用法を比較する。
- ロシア語と英語でのファースト・ネイムの使用の類似性 （Cathy と Катя） と相違性（Игорь）を理解する。

スタンダード４.２　学習対象のロシア語と自己の文化を比較し、文化の概念を理解する。

４年生の到達指標サンプル

- ロシア人とアメリカ人の祝祭日と誕生日の祝い（食べ物、歌、土産のタイプ）の違いを理解する。
- ロシア人とアメリカ人の活動（スポーツ、食べ物、余暇の過ごし方）の類似性と相違性を観察する。
- ロシアとアメリカの玩具、土産、ゲームを観察したり、比較したりする。

Comparisonsの具体的な実用例を挙げよう。ロシアの文化的な概念の理解には、御伽話や歌や他のフォークロアジャンルの理解が役に立つ。このような文化現象には、ロシア文化の特徴が反映される。ロシア語の授業では、様々な問題が議論されるべきである。たとえば、ロシアとアメリカの文化における詩の役割の違い、ロシアとアメリカの少年少女のサブカルチャーにおける自動車の役割などを挙げることができる。この場合にのみ、１つの言語しか駆使できない人々に固有の、世界の平面図形的イメージでなく、立体的な描写を与えることができる。

３－５　Communities 国内外の多言語コミュニティーに参加する。

Communitiesは、多面的に理解される。１つは、教室の中だけではなく、その外でも外国語を使うことを目標とする。また、学校での外国語学習を終えた後もできるだけロシア語を使う機会を作り、生涯を通してロシア語を使いロシア文化に親しむ言語使用者を作るという外国語教育の最終的目標を述べたものといってよい。結局、この能力の習得によって、自分自身が属するマルチカルチャー的な共同体だけでなく、国内外の多言語のコミュニティーに参加することができるようになる。

スタンダード５.１　学んだロシア語を学校内外で使用する。

４年生の到達指標サンプル

- 学校あるいは町で、他人のためにロシアの歌を歌う。
- 他人に見せるための、ロシア文化関係のピクチャーを自分で描く。
- ロシア語と文化に関する情報を他人に発表する。
- “hello”と“goodbye”、他の敬語に相当する言葉を他のロシア語話者とのコミュニケーションで利用する。

スタンダード５.２　ロシア語を個人的な楽しみや自己研鑽のために使い、生涯を通してロシア語を学ぶことを心がける。

４年生の到達指標サンプル

- ロシアのアニメと音楽作品（«Кот Леопольд», «Чебурашка»）を見る。
- ロシアの歌（«Бумажный солдат», «Пропала собака»）を聞いたり、歌ったりする。
- ロシアのゲーム（«Гуси, гуси», «городки»）で遊ぶ。
- ロシアのスポーツと娯楽の催しものの知識を得る。

Communitiesの具体的な例を挙げよう。たとえば、学校が位置する町の町民（共同体）のためにロシアクラブに属する生徒が行うロシアフェアの開催である。

４．学習シナリオのサンプル。

学習スタンダーズの最後の部分には、学習スタンダーズの考えを適用したクラスの活動例が示されている。学習スタンダーズを反映したクラス活動のスナップショットで、おそらく基準の中ではこの部分が一番重要な部分と言えるかもしれない（當作、2006)。

「Standards for Russian Language Learning」では、所与のクラス活動によって達成できる学習スタンダードがリストアップされている。学習シナリオサンプルリストは様々なレベルのシナ

リオを示す。ここでは、ロシア語教育の初級レベルに相応しい「挨拶」というテーマの授業のシナリオの例を挙げたいと思う。シナリオでは、最初に授業で目標とするスタンダードが述べられ、その後にスタンダードに関してのクラス活動の具体的な内容が示されている。

目標とする学習基準
1．1　対人的コミュニケーション 1．2　解釈的コミュニケーション 1．3　提示的コミュニケーション 2．1文化行動 3．1連携活動 4．1言語比較 4．2文化比較

サミット学校の今の5年生たちは、6年生になると一年間の選択科目の外国語を履修する予定で、模擬授業でロシア語を紹介される。6年生のロシア語コースの最初の授業は挨拶を教える授業である。5年生の時にすでに簡単な挨拶を覚えた彼らは、今度は初めにロシア語の挨拶の形式と呼びかけ（“Mr.”と“Ms.”の欠如)、公式場面と非公式場面の簡単な相違に関する配布資料を学ぶ。その後、学習者は、様々な年齢と職業の人々のペアやグループが描かれたスケッチを見て、英語で、この場面で公式あるいは非公式な挨拶の交換が必要かどうか判断する。彼らはこのような違い（公式形と2人称複数形との違いを含む）に慣れると、グループの中で覚えてきたすべての挨拶を交換する。その後、教師からの支援を受けて、同じ意味の公式系の挨拶とその非公式系を合わせた表現リストを作成する。このような言語学習レベルでは筆記練習がカリキュラムの重要な部分であるので、各学習者が自分自身でそのリストを書かなければならない。また、コンピュータでのロシア語の入力の練習として、グループ全員がコンピュータでそうしたリストを作成する。

出会いと別れの挨拶の用法に慣れると、学習者はロシア人の名前の特徴（特に父称）について知る。彼らは苗字と父称の形成の基礎や最もよく利用される名前と愛称を習う。その後、彼らは、公式形と非公式形の区別に関する学習で用いられたスケッチをもう一度調べ、今度は場面の内容の違いに従って、登場人物のための名前を選ぶ。最後に、彼らは、ペアで、各スケッチに関してダイアログを作って、それを実演する。

彼らは会話の実習としてパーティーへの出席を演じてみる。各生徒は誰か出席者を選び、パーティーでその人の役を演じる。この人物はロシアの有名な人物になるはずである。生徒は、予め、職業と国籍に関するある程度の基本単語を覚えなければならないし、ユーリイ・ガガーリン、イワン・パブロフ、アンナ・アフマートワのような有名なロシア人について読まなければならない。一人の生徒はパーティーのホスト役を務め、客が扉を通るごとに生徒はその人物を歓迎し、他の客に紹介する。

内省　(Reflection)

1．1生徒はロシア語の出会いと別れの挨拶の使用とパーティーでの客の紹介の仕方を習う。
1．2有名なロシア人についてのプレゼンテーションを聞く。
1．3表現リストをコンピュータで打ち込む。
2．1ロシア語における公式系と非公式系の違いを習う。
3．1有名なロシア人を選ぶことにより、生徒は他教科との連携を行う。
4．1社会上の区別がロシア語文法に反映していることを習う。
4．2社会関係に関する情報の符号化の面でロシア語と英語が違うことを習う。

「Standards for Russian Language Learning」の作成者は以下のようにコメントしている。「ロシア語における公式形／非公式形の相違は知覚的なレベルで理解することはそんなに難しいと思われないが、実際に行動するときにその相違が何を意味するか、理解を習得するのはとても難しい。発話の多くの場面でその相違を経験することを通して、生徒は、その相違がいくつかの動詞に留まらず、言語体系に深く浸透する現象であることを理解できる。このシナリオが伝え

ようとしているのは、すべてのタイプのロシア人の名前がロシア語における公式形／非公式形の複雑な相違に関連があることである」（Standards for Russian Language Learning, 1999, p.465）。実際の場面で言語を使える学生を作り出そうというのが学習スタンダードの目標である。学習スタンダードを応用していくに従って語学クラスは従来の外国語クラスと比較して学習ゴールが広くなっただけでなく、学習内容、コンテクスト、学習ストラテジー、テクノロジーをより有機的に組み合わせたものになっている。

５．スタンダーズ公表後の教育界の反応、影響

ナショナル・スタンダーズの導入後10年を経てACTFL は、『A Decade of Foreign Language Standards: Influence, Impact, and Future Directions』(2011)なる報告を行い、スタンダーズが研究、教育機関、教育者にどのような影響を与えたかという調査結果を公表した。スタンダーズに関する研究文献の分析によって以下の事情が浮かび上がった。スタンダーズを扱った591件の文献が分析の対象となった。“Topic framework”のカテゴリーの参照の多い順で文献を並べると、最も多いテーマとなったのは、教室への影響を示唆する“カリキュラムとプログラムの開発”(212件）や“教師と教育活動”（148件）である。その次に“ポリシーとアドミニストレーション”(81件）が来るが、これは行政へのスタンダーズのインパクトを表す。ほかのテーマに関連するものは教育研究への影響の拡がりを示す。“理論と方法論”（68件)、“学習者と学習”（60件)、“研究(48件）である。“Topic area”のカテゴリーでは、カテゴライズし難い“Standards”（136件）の次に“Classroom examples”（115件）がある。このデータに拠れば、スタンダーズがもっとも大きい影響を与えたのは教室での教育だと解釈できるだろう。

関連の文献で５つのコミュニケーション能力は以下のように扱われている。件数を示す。

５Cs 全て纏めて	184
Cultures	58
Communication	37
Connections	27
Comparisons	18
Communities	18

５つの能力すべてを扱っている研究が多いのは、スタンダーズが主張する能力の相対性というアイディアが教育界で広く受け入れられた事実を表すだろう。また、専門家によってスタンダーズを読者に紹介するという努力も示している。文化能力関連の文献が数でコミュニケーション能力関連文献を上回ることは不思議のように見えるが、５つの能力に関するインターネット上の調査では、５能力のうち教育者はどれを重視しているかという調査項目でコミュニケーション能力の方が文化能力を上回っている。論文数との齟齬は、論文の執筆者が学術文献ではあまり取り上げられないトピックを詳述したいとの狙いをもっているからだと解釈できるであろう。また注目に値するのは、 Connections が３位を占めており、文献数で大幅にComparisonsと Communities を上回っていることである。このような結果は、論文執筆者たちが言語教育を他の科目でも利用したいという狙いを反映しているからかもしれない。Communitiesに関しては、文献で“Lost C”という表現がよく用いられた。これは、 この能力の習得が難しいという文献でよく見られる主張と一致する。結論として、CommunitiesとComparisonsはほかの３つの能力と比べて外国語教育に対して影響が少なかったといえるだろう。

このデータはすべての教育者と管理者に関わるが、学習者の態度を対象にしていない。では、ウィスコンシン大学とマジソン大学の学生を対象に行われた調査によると、かれらが外国語学習の個人目標としてCommunities Standardsを優先し、Interpersonal とInterpretive Communicationは副次的な位置に置いていることが分かった。

次に、教育機関への影響に関する報告データは、国家レベルで定められたスタンダーズがその下の州のレベルでどの程度に実現されているかを示す。州レベルの管理者への質問調査や州の教育局のウェブサイトの調査結果が示すように、ナショナル・スタンダーズのインパクトは

州のスタンダーズの上にはっきりと見られる。最低でも40州で５つの能力の影響がかなりはっきり現れている。大多数の州では５つの能力の構造がそのまま機能している。残りの州では５つの能力すべてが統合された形（たとえば、Comparisons とCultures）で現れている。

５つの能力は、スタンダーズを表す図が示すように、同じウェイトを持ち、相互依存的である。とはいえ、その原則がすべての州で維持されているとは限らない。ある州では伝統的な立場が保たれ、CommunicationとCulturesが主な目標領域として定められて、ほかの3つの能力は重要性の面でより下位に置かれる。それでも、２つを除くすべての州でナショナル・スタンダーズが何らかの形で受けいれられている。このように外国語教育へのアプローチの変化がはっきり見られるのだ。なぜなら、以前はほとんどの州で外国語指導は四技能の個別的な教育という形式で行われていたのだし、別の場合でもその四技能に文化が追加された形式だったからである。現在、およそ40州で、ナショナル・スタンダーズに示された３つのモードの枠組みを中心としてコミュニケーションが取り上げられている。こうすることでコミュニケーションのコンテクストをより豊かにし、拡大する。それが教育と学習に大きな変化をもたらすのである。また、教育に関する州の指導書類では、まず、観察プロセスと経験の概念をもって文化の習得を教えることを述べている。明らかに、この現象は、文化に関する事実の旧来的なリストアップや生活様式に関するたいてい時代遅れのコメントからのシフトといえるだろう。

報告の中で最も興味深いのは、教室内の活動にスタンダーズが与える影響だろう。教育者を対象に調査が行われた。以下にいくつかの回答のパターンをまとめた形で示す。

- 教員たちはスタンダーズ関連の教室内活動を行うことに努め、スタンダーズ志向の授業／ユニットのセリフを作って、実施する努力をした。また、彼らは日常活動にもスタンダーズを結びつけることに努めた。この傾向はスタンダーズが発表された直後にとくに目立ったが、現在、多数の教員は、スタンダーズをまず組織的原則や活動の基盤として意識している。
- 教員たちは教育課程で主にCommunication（79％）とCultures（22％）能力の育成に集中している。Communicationの中では対人的コミュニケーション（79％）が優位で、解釈的コミュニケーション（31％）と提示的コミュニケーション（24％）に比して圧倒的である。しかし、彼らがコミュニケーションの3つのモードと文化の３P パラダイムをどの程度理解しているかははっきりしない。文化能力の教育は教員の海外の文化の経験の有無に大きく関わるとする意識が強かった。
- Connections （11％）とCommunities（８％）の数字は、教員たちがこの能力領域をスタンダーズの作成者が想定したスケールで受け取っていないことを証明している。このデータは、教員たちがスタンダーズに含まれるConnectionsによる他教科とのつながりを評価していない事実を表す。また、多くの教員はCommunities能力の育成を自分が義務的に生徒をローカルコミュニテイーあるいは海外につれて行かなければならないことだと解釈して、したがってその目標領域は曖昧で、コントロールしにくい、到達不可能な能力であると判断した。
- スタンダーズは、学ぶ言語を教室でできるだけ多く使用しなければならないと主張しており、教員たちは教室でのほとんどの授業で最低90％の授業時間を学習言語の使用に費やしている。
- 教員たちは教室で生徒にスタンダーズそのものを教えなかった。
- スタンダーズが与えた影響でもっとも少なかったのは、学習者が学習言語を話すコミュニティーとやりとりする能力の評価やテクノロジーを利用して他人とのコミュニケーションのための可能性を提供することである。

教育者を対象に行われた調査の結果は、かれらが自分の仕事でかなりの程度でスタンダーズを考慮しているという事実を証明する。アンケー

トにたいする彼らの回答は、将来の教育の計画と外国語教育全国基準推進プロジェクトに貴重なデータを提供していると言えるだろう。

ACTFLは調査の結果から以下のような結論を出した。

- ナショナル・スタンダーズは初等教育レベルから高等レベルまで大きな影響を与えた。
- ５Csの統合した本質が教育界によって認められたのである。
- 教育者たちは、学習者がConnectionsとCommunitiesの目標領域で何を知らなければならないかと何ができるかについてもっと詳しい説明を求める。
- 40以上の州は５Cs目標領域（多少違う形のものを含めて）を州の言語教育スタンサードの作成のために利用した。
- ある州は教育指導書類で文化のことを「観察の過程と経験」の点から述べ始めている。
- 多くの地方のカリキュラムも５Cs目標領域と11のスタンダードと関係している。

（World-Readiness Standards for Learning Languages）

６．おわりに

「Standards for Foreign Language Learning in the 21st Century」は外国語教育の各分野（スタンダーズの研究、教育機関、教育者）に大きな影響を与えた。本書は専門的な文献でよく引用され、スタンダーズを構成する5つの能力の理論研究や教室実施のための探求を促進した。スタンダーズ研究関連の学術文献は、初中等教育だけでなく高等教育のためのカリキュラム、プログラム、教室での指導ガイドラインの作成の手がかりとなった。新しいスタンダーズが導入され、再編成された目標領域にたいする評価の新方法が探求されるようになった。

ナショナル・スタンダーズの教育のためのガイドラインは幅広く分かりやすく柔軟なものなので、多数の州、あるいは州が採択しなくても、学区独自にとって自分のニーズと目標に合わせることができる。

ナショナル・スタンダーズは、その内容を深化させているだけでなく、地理的にも新たな範囲に広がっている。最初に発表された主な外国語のスタンダーズに加えて、アメリカの手話、ヒンディー語、韓国語、スワヒリ語、現代ギリシア語、スカンジナビア諸語、ヨルバ語のスタンダーズも作成中である。

もちろん、ACTFLの報告が証明しているように、再編成されたコミュニケーションの目標領域にたいして教育界の反応は一様ではない、特にConnectionsとCommunitiesの必要性の疑問視やその能力の獲得困難の意識が目立つ。将来的にスタンダーズのさらなる再編成と改善もあり得る。いずれにせよ、スタンダーズはアメリカの外国語教育における大きな前進となり、教育レベルの向上に貢献したことは否定できない。

（2014年12月1日受付、2015年1月15日受理）

参考文献

（インターネット上のものは2014年11月20日に参照した）

日本語

牛田英子(2007)「ナショナル・スタンダーズの日本語教育への応用―国際関係大学院における日本語カリキュラムの開発―」、『世界の日本語教育』17、2007、6月

奥田邦夫、奥田久子 (2003)「アメリカ合衆国における外国語学習の新しい動向」『福山大学人間文化学部紀要』第3巻、2003.

柴原智代(2007)「各国のスタンダード作成の意義と日本の課題―ヨーロッパ、米国、オーストラリア及び中国、韓国の比較・分析」国際交流基金『日本語教育紀要』、第3号、2007.

當作靖彦(2006)「アメリカにおける外国語教育学習基準」『日本語学』25（13）.

平高史也(2006)「言語政策としての日本語教育スタンダード」『日本語学』25（13）.

国際交流基金日本語国際センター (2002)『Standards for Foreign Language Learning in the 21st Century　21世紀の外国語学習スタンダーズ「外国語学習スタンダーズ」』 聖田京子(訳). https://www.jpf.go.jp/j/japanese/survey/country/syllabus/pdf/sy_honyaku_9-1usa.pdf

田中慎也、相川真佐夫（2004）「アメリカ」 国立教育政策研究所　研究成果報告書　（21）『外国語のカリキュラムの改善に関する研究－諸外国の動向－』
http://www.nier.go.jp/kiso/kyouka/PDF/report_21.pdf
船山久美(2004) 「海外中等教育段階日本語教育の理念と目標について－シラバス・ガイドラインの考察より－」
http://www.koidekinen.com/pdf/2004_funayama.pdf

英　　語

Davidson D., Garas N. (2009), The ACTR Nationwide Survey of Russian Language Instruction in U. S. High School in 2009、 *Russian Language Journal*, Vol.59, 2009, p.3-20.

A Decade of Foreign Language Standards: Influence, Impact, and Future Directions. Submitted by Co-Directors: June K. Phillips,
Weber State University (Emeritus), Marty Abbott, ACTFL. October 2011. Report of Grand Project # P017A080037, Title V11, International Research Studies, US Department of Education to the American Council on the Teaching of Foreign Languages.
http://www.actfl.org/sites/default/files/pdfs/public/national-standards-2011.pdf

Merrill P., Lekic M., Levine J. (1997) *Russian Language Programs in the United States: A Language Learning Framework for Secondary and Post-Secondary Education.*
American Council of Teachers of Russian.

National Standards in Foreign Language Education Project (1999), *Standards for Foreign Language Learning in the 21st Century*. Lawrence, KS: Allen Press, Inc.

Standards for Russian Language (1999). In: National Standards in Foreign Language Education Project. *Standards for Foreign Language Learning in the 21st Century.*
Lawrence, KS: Allen Press, Inc.

World-Readiness Standards for Learning Languages. ACTFL
http://www.actfl.org/sites/default/files/pdfs/World-ReadinessStandardsforLearningLanguages.pdf